

## JR当局、権力の不当弾圧介入粉砕! スト石皮りを断じて高卒な

12.5  
三波外

# 優等の宮を奪う

一月三〇、検修・営業の仲間達一〇一名は、敢然とストライキに立った。もうこのままでは殺される。人命をも紙屑の程しか思わぬJR東日本に、我々の闘いに歯ざりしてくやしがらるJR総連、革マルに痛烈一打を与えたのだ。まだまだ始まりにすぎない。さあ次は全本線乗務員の二四時間ストだ。

さまざまな反動がおそいかかって来るだろう。当局、JR総連のスト破り、ロックアウト排除、警察権力の弾圧、脅し、そんなものを恐れることはない。全組合員が一丸

となりストを貫徹し、更に団結を打ち固めたとき勝利がわがものとなる。いざ一二・五ストへ。

総決起集会は布施副委員長の決意みなぎる開会の言葉で始められ、駆けつけた動労水戸の国分氏の連帯のあいさつを受けたのち、われんばかりの拍手の中、ストに突入した仲間達が登壇する。検修

職場から幕張、津田沼、木更津の各支部が、営業からは京葉、総武両支部と北総、外房、南房の代表がスト突入を報告し力強い決意をのべる。

今、JRでは考えられぬ事故が続発しているその原因は、分割・民営化体制そのものといえるが、その第一は、事故は貨物に集中している。JR東日本にとって貨物などどうでも良いという考え、東日本の貨物を軽視した企業エゴである。

第二には、二倍にもならないとする労働強化が乗務員をクタクタにしている。こういう事を改めなければ、いかぎり事故は続く。更に労働者の監視だ。本社の何も知らないヤツラが背広を着て、運転室に乗り込んでくる。運転指導

渡辺乗務員分科会長、全乗務員の怒りの決起を語る



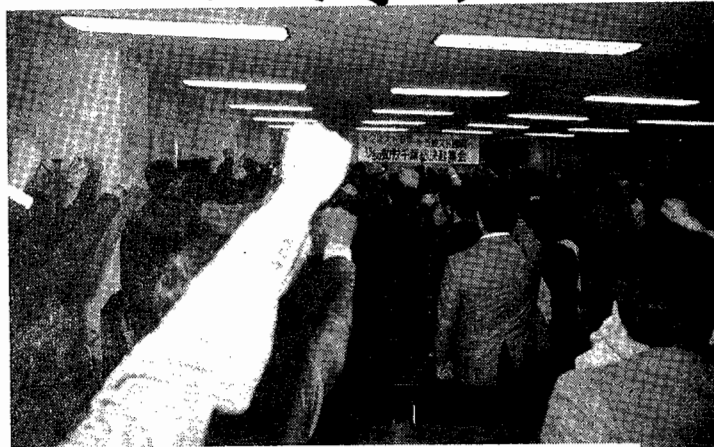
今こそ、反合・運転保安闘争を闘わなければならない。今のJRを見よ、事故、事故、事故。会社が悪いのにはわかっていて、我々が職場から立ち上がらなければ安全はない。そして、差別・選別のエスカレーションがある。当局は運転士の登用を強行した。採用年次を無視し、労連を登用したのだ。

今、山ノ内副社長はストに憎悪し、公休呼び出し、労連、助役、課員を根こそぎ動員し、スト破りに必死だ。この大反動にどう打ち勝つか、それは断固たる団結と、火を吹くような怒りだ。全組合員がストライキに結集する。それが敵にダメージを与え、勝利を勝ち取るのだ。

「車掌から」と言うが大ウソだ。労連に入らなければ運転士にしないと云っているのだ。またこの闘いを、清算事業団の仲間を奪還する、その闘いと結合しなければならぬ。国労も清算事業団闘争にストライキで闘うでしょう。我が動労千葉の闘いは、JR内年の迫害に断固闘い、何よりJR本体の闘いと、清算事業団の仲間と、清結合する。これが勝利の道だ。一二・五は闘い、第一歩、更に二歩、三歩闘うことに勝利がかかっている。

三四の名の大結集

## JR弾劾 スト決行 いざ!三波へ



今、山ノ内副社長はストに憎悪し、公休呼び出し、労連、助役、課員を根こそぎ動員し、スト破りに必死だ。この大反動にどう打ち勝つか、それは断固たる団結と、火を吹くような怒りだ。全組合員がストライキに結集する。それが敵にダメージを与え、勝利を勝ち取るのだ。